

中学生向け出前授業における 可視化サイトの活用

福岡県飯塚市
都市建設部都市計画課

以下のポイントをクリアする際に可視化サイトが有効でした

中学生に都市計画を説明するにあたり、注意したポイント

- ・ **簡単な言葉**

- 一中学生向けなので「公共交通＝バスや電車」というようになるべく簡単なことばや説明を用いることとした。

- ・ **身近な例を使う**

- 一市の中でも特に校区内の話をした。逆に比較するものや広い範囲の話のときには博多や糸島などテレビでも出るような場所を使った。

- ・ **なるべく図や絵が多いものを使う**

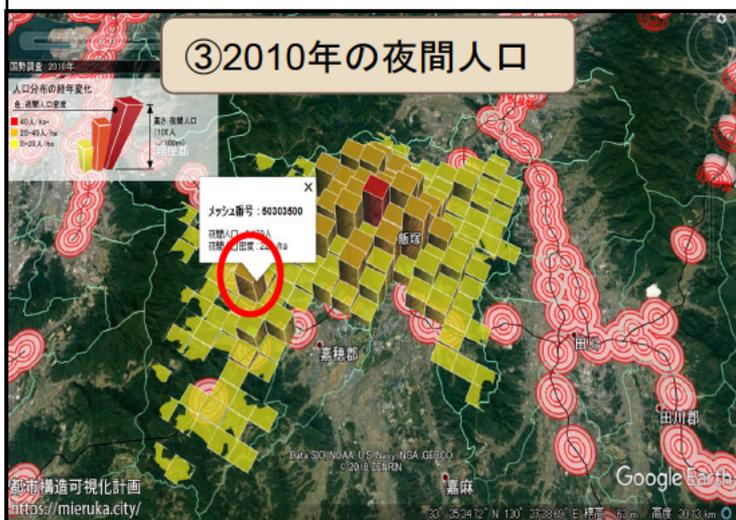
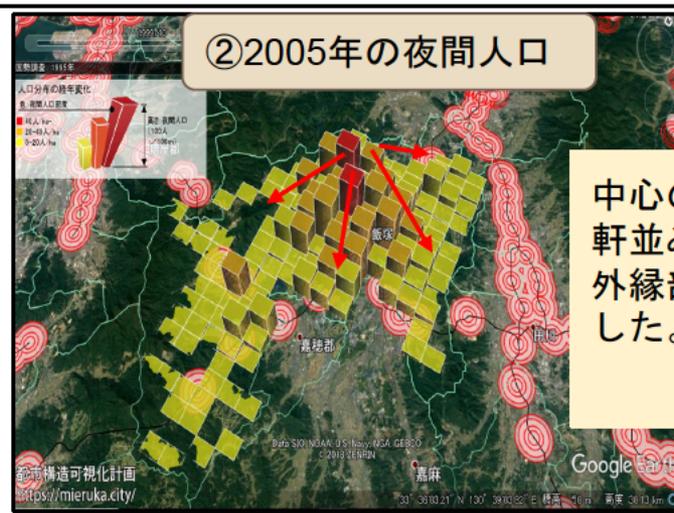
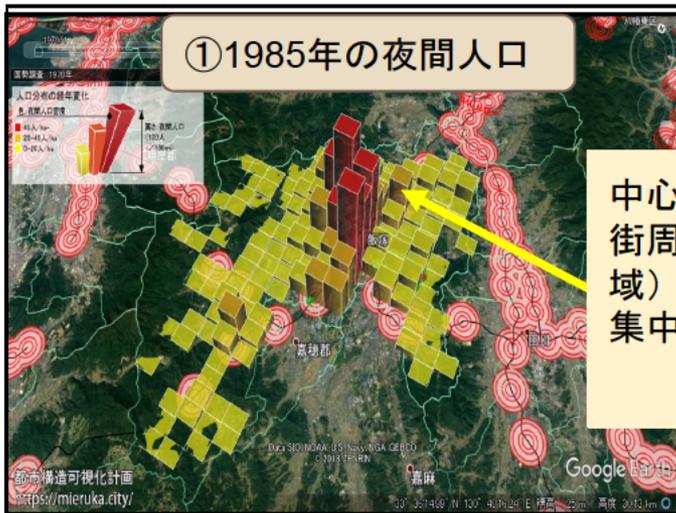
- 一お昼休み後の眠くなるであろう時間帯であったのでなるべく飽きさせないようにした。

- ・ **将来のまちづくりに興味をもてるように**

- 一市の将来についてすこしでも興味（危機感？）がもてるようになるべく将来のことをメインに構成した。

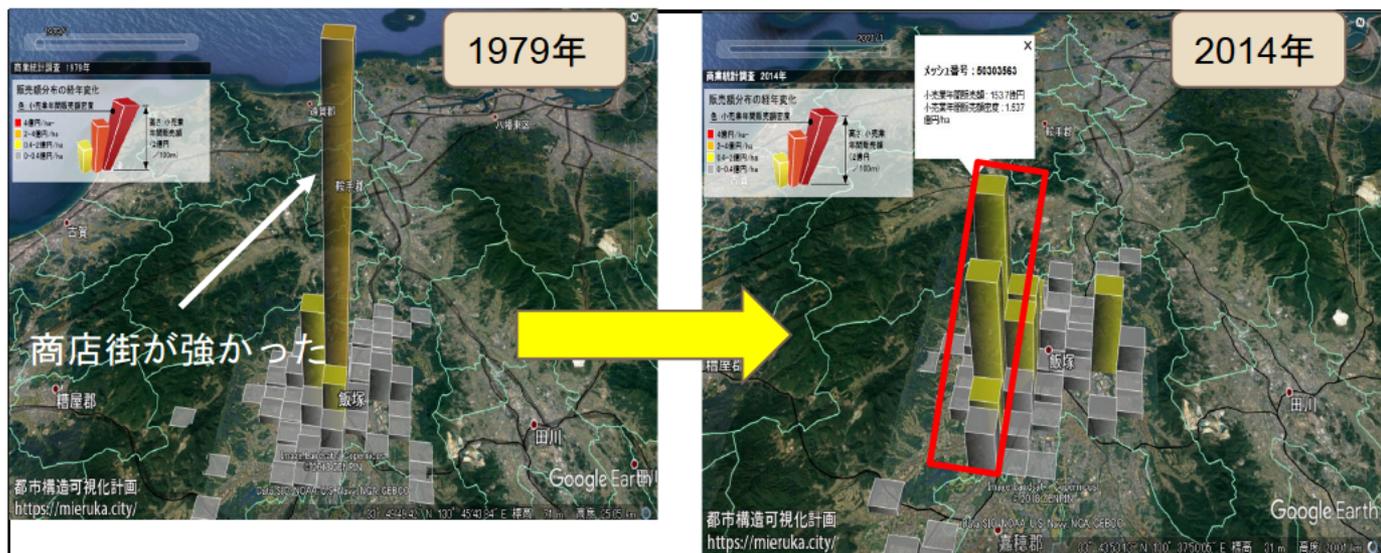
1.人はどのように住む場所を変えているか

公共交通と人口の関連性



2.販売額分布をみる

昔はすごかった！だけではいけない。



1979年は周辺地域の中でもずば抜けて販売額が高かった。商店街や百貨店のあった地区に販売額が集中していた。

2014年はイオンと国道沿い店舗が販売額を上げている。

時代の経過とともに、商店街から大型ショッピングセンターやロードサイド型の商業施設に買いものに行っていることがわかる。



3.公共交通を使う人の割合の分布

市民は公共交通機関を使うのか？糸島市と比較してみた



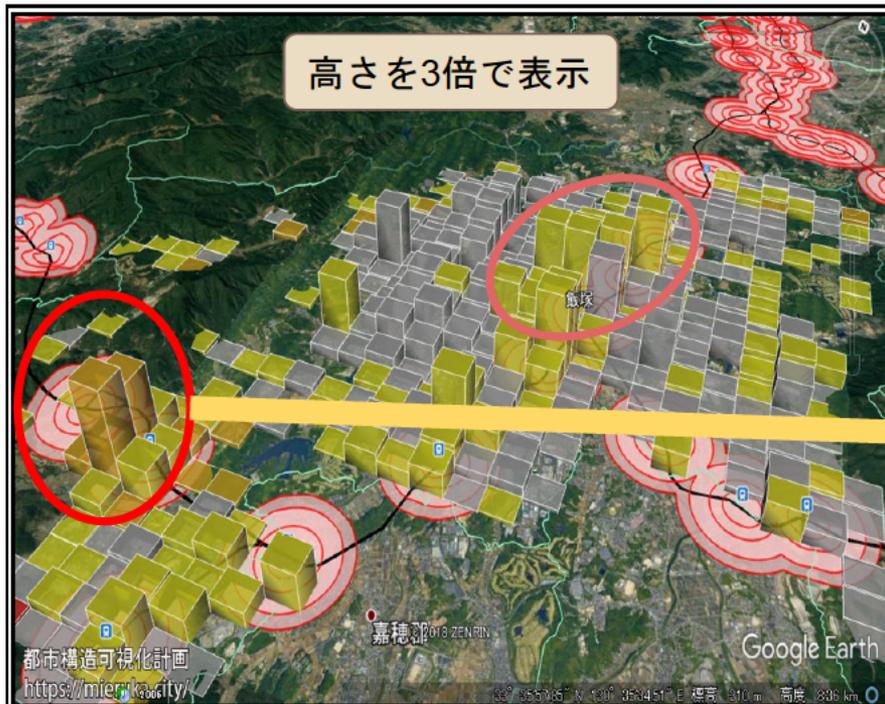
飯塚市は全体的に通勤通学で公共交通機関を使う人が少なく割合はメッシュ内人口の10%程度であった。ぽつぽつとある割合の高いところは人口が少ないため割合が高くなっている。

→やはり車の文化が飯塚市にはあるようだ。

対して糸島市は駅の周辺部の利用者が多く、割合は25~50%の人が通勤通学で公共交通機関を利用している。

3.公共交通を使う人の割合の分布

市民は公共交通機関を使うのか？飯塚市内で比較してみた



市内の利用者を比較するにあたり、表示を高さ3倍に変更し、駅のバッファと重ねて表示した。JR市新塚駅周辺、飯塚バスセンター周辺は新しいマンションが多いこともあり、通勤、通学で公共交通を使う人の人数が多いことがわかる。JR筑前大分駅周辺の地域のみ割合が25%を超えていた。夜間人口のときに見た地域と同地区であり、開発団地が形成されており、住民は福岡都市圏へ通勤通学の割合が高いと考えられる。

3.都市構造可視化を使って感じた課題

(名古屋市さんのおっしゃるとおりだと思いましたので参考にさせていただきました。)

可視化サイト活用における本市の課題



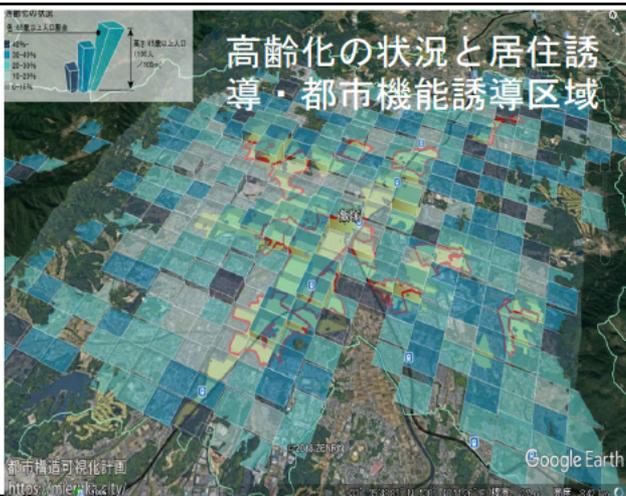
①無線LANの使用不可

→今回のように持ち運びをする～ということができない。

②自由にインターネットが使えない環境

→国からのインターネットの強靱化の通達を踏まえ、仮想デスクトップを導入しているが、仮想環境ではGoogleのストリートビューも重くて見れないし、Google Earth Proのダウンロードも不可能

可視化サイト活用における個人的な要望



「GIS」をもっと使う。使える人を増やす。

→もっと行政職員が「GIS」を当たり前を使いこなせる環境が必要だと感じました。立地適正化計画の区域をGoogleEarthで表示すると、中学生からもすごいという声がありました。ストリートビュー見ることで、どこに誘導したいのかということがわかるので、説明会等においてGIS,都市構造可視化サイトの活用は非常に有効であると思いました。

福岡県飯塚市 都市建設部都市計画課